

## 令和2年度第14回士別市教育委員会会議録

1. 日時 令和3年1月15日(金) 午後3時10分～午後4時18分
2. 会場 教育委員会 会議室
3. 出席者 教育長 中峰 寿彰 生涯学習部長 鴻野 弘志  
職務代理者 五十嵐 紀子 合宿の里統括監 三上 正洋  
委員 馬場 千晶 学校教育課長 須藤 友章  
委員 加藤 洋之 社会教育課長 武山 鉄也  
委員 山田 敦久 図書館長 岡田 英俊

### 4. 議件(発言者、議事要旨及び議決事項)

#### ○中峰教育長

本来であれば昨日に会議を開催予定であったが、暴風雪の予報が出ていたこともあり大事をとって延期した。

今日から小中学校では3学期がスタートした。中には風邪で欠席した子どもが数人いたが、おおむね元気に登校しており、学校から特段の連絡なども来ていない。3学期は学年の「締め」にあたる、特に卒業生には何とか思い出に残る卒業式で送り出してあげたい。北海道ではコロナウイルス対策期間が延長され、他の都府県では緊急事態宣言が発令されている。今は対策を講じて感染拡大を防いであらうと、きっちり行事が行えるようにしなければならない。しかし、本市でも成人式を延期せざるを得ないとの判断を下したように状況は厳しく、近隣町村では職員が陽性と判明したとの報道があった。

GIGAスクール構想実現のために整備した端末については、順次学校に納品されているところであり、先週から4日間の日程で教員を対象とした「キックスタート研修」を開催した。この研修は基本操作の説明などが中心だが、今後は更にステップアップした研修を行う予定である。オンライン授業のシミュレーションなど学校での機器の活用方法について検討するほか、情報セキュリティのリスクについて家庭内でも理解していただくため、学校教育・社会教育連動して進めていく。

本日は、前回の会議で説明した社会教育施設等の開館時間について、それぞれの会議で説明した状況と意見等について報告するほか、学校でのハラスメント防止に関する指針などについて協議いただく。

本日もよろしく願います。

#### 1 議事について

##### ○中峰教育長 進行

議案第29号 社会教育施設等の開館時間について説明を求める。

##### ○鴻野部長

前回の会議でお示した内容を基本として関係団体に説明し、意見を伺った。文化センターは土日祝日について閉館時間を繰り上げる。生涯学習情報センターは開館時間について図書館との整合を図り、両施設とも新たに休館日を設ける。博物館は前回会議の場では検討中としていたが、冬季間は平日を休館するとともに、通年的に休館日を1日増加するもの。ただし、子どもたちが冬休み中に活動の場所として利用できるよう1月末から休館する。サンライズホールについては現段階で変更の予定はない。

##### ○三上統括監

スポーツ関連では、日向スキー場の日曜日の営業時間について、終業時間を17時に繰り上げることとした。この時間帯は統計的にも利用者が少ない。また、あさひスキー場の土曜日の営業時間を、始業・終業ともそれぞれ1時間繰り上げるほか、冬季休業期間中の平日について、始業時間を3時間繰り下げ13時からとし、営業時間を短縮する考えである。最後に体育協会に管理を委託しているスポーツ研修所については廃止する方向で検討している。

○中峰教育長

前回示した内容については検討中だったものがあった。質問等があればご発言を。

○五十嵐職務代理者

生涯学習情報センターは年末年始以外は開館しているが、月曜休館とする理由は、

○岡田館長

定期利用している団体や一般の利用が少ないためである。また、現在の体制になる前は月曜日が休館だった。

○中峰教育長

各団体への説明状況は？

○岡田館長

これから随時行う予定である。

○五十嵐職務代理者

子どもたちが地下のギャラリーをよく利用しているが、その状況は、

○岡田館長

小学生は16時まで、中学生は17時までと決まりを守って利用している。

○中峰教育長

月曜日は利用することができなくなる。他に、いきいき健康センターも月曜休館に向け調整しているとのことであり、「市の施設全てが月曜休館になるのでは」と懸念した市民の方から電話で問い合わせがあった。生涯学習情報センターといきいき健康センターは利用目的が違っている。情報センターと使用目的が同様である文化センターは月曜日でも使用可能であることを説明し、納得いただいた。各諮問会議での意見について説明を願う。

○武山課長

社会教育委員の会議では「休館はいたしかたない」との意見のほか、「開館している時に何ができるかが大事」との意見があり、関係機関に周知し理解いただいた。博物館協議会は書面会議としたため、1月末まで意見を照会しているところ。現在、7人の委員から回答があり「活動が停滞しないようにすべき」などの意見が寄せられている。

○岡田館長

図書館協議会でも「残念だがいたしかたない」との意見や「イベントや図書資料の整備などは今までどおり取り組んでほしい」との要望があった。

○鴻野部長

中央公民館の運営審議委員会は開催することができていないため、委員に情報提供する予定である。

○中峰教育長

教育委員会関連の施設は説明したとおり変更する予定だが、全庁的に他の部署が所管する施設も見直しを行っている。令和3年度は財政健全化実行計画の初年度にあたり、各部署から取りまとめた政策予算を全て実行するには、かなりの額が不足している状況にある。そのため、体制の組み換えなどを行い会計年度任用職員を減らすことなどの提案もされている。今後、予算の計数整理が行われるが、実施す

る事業について取捨選択しなければならない状況にあることはご理解いただきたい。サービスが減少せざるを得ない状況だが、質的には低下させない方策を考えなければならない。令和3年度はこのような体制になることをご了解いただけるか。

(全員了承)

○中峰教育長

議案第30号 士別市立学校における教職員のハラスメント防止等に関する指針について説明を求める。

○須藤課長

セクシュアル・ハラスメントなどのハラスメント防止については、関係法令で事業主は労働者からの相談に応じ、適切に対応するための体制の整備など必要な措置を講じなければならないとされており、北海道教育委員会からも同様の通知が出されている。本市には「士別市職員のハラスメント防止等に関する要綱」があるが、教職員を対象としたものではないため「士別市立学校における教職員のハラスメント防止等に関する指針」を定めた。なお、実際に相談がなされた場合、相談員として生涯学習部長及び学校教育課長が対応するが、相談の内容によっては女性が相談を受けなければならない場合もあることから、その場合には必要に応じ柔軟に対応したいと考えている。

○五十嵐職務代理者

相談員が男性ばかりではいけないと思っていた。

○中峰教育長

あらかじめ選定しておくべきかもしれない。

○山田委員

外部組織に相談するとの発想も必要ではないか。

○中峰教育長

相談がもみ消されたり、変に納得させられてしまうというような懸念を抱くことのない体制も必要であり、構成員は職員ばかりでなく第三者の方が良い場合もある。弁護士や人権擁護委員などに協力を求めることの想定も、今後は要検討。

○山田委員

相談しやすい雰囲気が出るのでは。

○中峰教育長

相談できる窓口として対応できればと考えている。指針の修正が必要となった場合は、改めて会議でお諮りしたい。

## 2 その他について

### (1) 第3次士別市子ども読書活動推進計画の策定について

○岡田館長

計画の進捗状況について、8月5日に開催した教育委員会会議の際に、第1回目の策定委員会会議を開催し、児童生徒や未就学児の保護者に対するアンケート調査を行って、その結果を平成28年度に行ったアンケートと比較する予定であることを説明した。その後実施したアンケート調査では1,530名から回答いただき、回収率は80%であった。この結果を基に事務局で計画の素案や目標数値を作成し、12月に開催した2回目の策定委員会会議で説明した。今月下旬から一月程度パブリックコメントを募り、最終的には3月に開催する第3回策定委員会会議において完成としたい考えである。

○中峰教育長

アンケートの結果を比較したところ、「読書が好きか」との問いに「好き」と答えた子どもの割合が減少している。目標とする数値は実現可能で、以前の結果に戻すような設定とした。特に様々な活動を行っている高校生の割合が下がっている。生活の質が変わってきていると感じた。パブリックコメントは1月22日から予定しており、年度内の計画策定を目指している。

## (2) 当面する今後の日程について

鴻野部長説明

### ○五十嵐職務代理者

卒業式の開催方法は決まっているのか。

### ○中峰教育長

学校ごと、地域ごとなどいくつかのパターンを作っている。昨年の経験を踏まえ、短縮できるものはするように考えている。何とか多くの人に祝ってもらえる式にしたい。

中学生のアルペン・クロスカントリースキー大会において、上士別中と朝日中の生徒がそれぞれ優秀な成績を収め全国大会に進出したが、残念ながら全国大会が中止となってしまった。また、南中学校の吹奏楽部は、動画審査によるアンサンブルコンクールの全国大会において金賞を受賞した。

このほか、ウエイトリフティング競技の士別翔雲高校羽田創さんと、本市出身でハーフマラソン日本記録を樹立した小椋裕介さんを北海道スポーツ賞に推薦していたが、このたび受賞が決定した。残念ながら授賞式は中止となってしまったため、本市教育委員会から何らかの形で伝達したい。

令和3年度の教職員人事について、管理職は概ね決定しているが一般職は調整中である。文部科学省が35人学級を拡大する方針を発表したが、これにより全国的に教員の増加が見込まれ、これまで本市にも「加配」として配置されていた教員がそちらに回されて、配置されなくなる恐れがある。北海道は先んじて35人学級を推進しているため、本市の学級数が大幅に増える状況ではない。士別小学校の新一年生は29人の見込みであり、1クラスだけになる。

新年度の教育行政執行方針については今月中にまとめたいと考えている。2月17日に開催される予定の市議会全員協議会において予算と執行方針について説明することになる。方針には、GIGAスクール構想の実現に伴い必要となるネットリテラシーについても触れる考えだが、他に取り入れるべきことはないか。

### ○五十嵐職務代理者

新たなものはそれなりに必要となるが、継続のものについては、なかなか思い浮かばない。

### ○中峰教育長

市長は財政健全化実行計画に対し強い思いがある。スクラップアンドビルドが基本とされるなか、障がい者スポーツ大会は例外であるが、ハーフマラソン大会について開催するか検討しなければならない。東京オリンピック・パラリンピックの開催がどうなるのかも大きな問題である。オーストラリアは一部競技に不参加との報道もあったが、安全策を講じて実施することができるのか。オリンピックが開催される場合は、全国から警察官が動員されるとの話もあり、ハーフマラソン大会にも影響が及ぶ恐れがある。オリンピックデーランについては、これまで6月23日のオリンピックデーを基本とし、機運を高めて本番に臨みたいと考えてきた。しかし、デーランの開催にあたっては、JOCからPCR検査の実施やワクチン接種の証明書を提示するよう求められている。ワクチンの生産体制はどうなるのか疑問であり、場合によってはオリンピックとパラリンピックの狭間となる8月から9月頃に開催することも検討したい。

### ○山田委員

PCR検査の際に検体を郵送できないかとの相談もある。

令和3年度は原点回帰し、地に足のついた「そもそも」の活動をすべきではないか。

○中峰教育長

教育委員会の業務は自治体によって市長部局で担当している場合がある。本市では地方創生の柱として「交流人口の増」に取り組んでいる。誘致企業などと同様、合宿も大切である。

○五十嵐職務代理者

伊達市の春一番ハーフマラソンも中止との報道があった。

○中峰教育長

集中対策期間が拡大されている中、サンライズホールで久々の公演がある。芝居「グレーのこゝろ」は出演者などがPCR検査を受けたうえで来市するとのこと。楽しみにしている人が多いようだ。

卒業式などを開催するうえで有効な換気の方法が紹介されていた。

○五十嵐職務代理者

博物館で開催している「サイエンスフェスティバル」について、子どもを集めての開催は中止となったが、そのかわりにインターネット動画を公開している。動画は14本ほどあったが、とても楽しく見ることができた。これからの時代に大事な発信の仕方であると感じた。これまでに市内のすばらしい風景を写真で見ただけではあるが、動画で見るというのも面白い。

○中峰教育長

他市でもPRには工夫を凝らしている。中にはふるさと納税の金額が100億円を超えている自治体もある。本市も魅力ある返礼品によって納税額が増えることを期待したい。

GIGAスクール用に整備した端末が納品されたので、委員のみなさんにもリモート会議を体験していただきたいと考えている。いきなり自宅で会議に参加することは難しいと思うので、事務局内の別の部屋に分かれて会議に参加いただくなど検討したい。

以上で会議を終了する。

午後4時18分 会議の終了を宣した。

この会議は、会議の顛末を記載し、相違ないことを証するため署名する。

署名者 中峰 寿彰

会議録調整者 須藤 友章